



研究活動報告

雑誌名	筑波大学先史学・考古学研究
号	25
ページ	97-100
発行年	2014-03
その他のタイトル	Department Activities and Publications in 2013
URL	http://hdl.handle.net/2241/00149863

桜塚古墳に関する新知見は、前期古墳の墳丘形態をめぐる議論（日高 1998、塩谷 2000 など）にも一石を投じるものである。今回の調査結果により復元される桜塚古墳の墳丘形態は、後門部径：前方部長がほぼ 2：1 で、前方部が短く開くという特徴をもつ。くびれ部などが検出されていないため、前方部幅についての比較はできないものの、これと類似した特徴をもつ前期前方後円墳としては、筑西市灯火山古墳（瀬谷 1990）、つくば市山木古墳（上川名ほか 1972）、かすみがうら市田宿天神塚古墳（田中・日高 1996）、同熊野古墳（田中 1997）があり、それらは桜川流域から霞ヶ浦北岸にかけて分布している。一方、桜川下流域から霞ヶ浦南岸および北浦沿岸にかけては、土浦市王塚古墳（土浦市史編さん委員会 1975）、美浦村愛宕山古墳（高橋 1990）、同観音山古墳（大竹ほか 1981）、潮来市浅間塚古墳（茂木ほか 1980）、鹿嶋市伊勢山古墳（茂木・片山 1975、陣内 1982）などのように、前方部が開かず直線的な形態をもつ前期前方後円墳が分布している³⁾。こうした墳丘形態の違いがどのような系譜関係を示し、また、その分布域がどのような意味をもつのかについては、首長系譜のあり方（滝沢 1994）とも重ね合わせながら検討すべき重要な課題といえよう。

桜塚古墳では、埋葬施設や副葬品などについても検討すべき課題が数多く残されている。今回の調査成果を加味しつつ、それらについてもさらなる検討を進め、近い将来の最終的な研究報告を期すこととしたい。（滝沢 誠）

謝 辞

今回の調査に際しては、桜塚古墳の地権者の方々にご快諾をいただくとともに、水守地区の皆さんからは多方面にわたるご協力をいただいた。また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会には、調査の実施について全般的なご理解とご協力をいただいた。さらに現地では、1979 年の調査を指揮された岩崎卓也先生に親しくご指導をいただき、下記の諸氏からも有益なご助言をいただいた。末筆ではあるが、記して感謝を申し上げたい。

石橋 充、井坂敦実、大村冬樹、小野寿美子、塩谷 修、設楽博己、田中 裕、谷口陽子、長谷川敦章、日高 慎、前田 修、松尾昌彦、三宅 裕、山本賢一（五十音順・敬称略）

註

- 1) 埋蔵文化財としての登録名称は「水守桜塚古墳」（つくば市教育委員会 2001）であるが、本稿では通称として使用されてきた「桜塚古墳」の名称を用いる。
- 2) 1979 年調査の概報では掲載図面の方位を磁北で表示しているが（蒲原・松尾 1981）、本稿の掲載図面では真北で表示することとした。なお、桜塚古墳の測量図（第 2 図）については、部分的な補足・修正を加えつつ、1979 年調査当時のものを使用した。
- 3) 前方部が開かず直線的な形態をとるものの中には、前方部長が後門部径に迫るほど細長いものと（王塚古墳、伊勢山古墳）、前方部長が後門部径の 2/3 程度のもの（愛宕山古墳、観音山古墳、浅間塚古墳など）が存在し、細分が可能である。

参考文献

- 赤坂 亨 2002 「神明遺跡出土遺物の考察」『常名台遺跡群確認調査神明遺跡（第3次調査）』土浦市教育委員会 173-180頁。
- 赤塚次郎 1990 『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集 愛知県埋蔵文化財センター。
- 阿部義平 2006 『茨城県常総市国生本屋敷遺跡発掘調査報告〔特定研究〕東国の豪族居館』国立歴史民俗博物館研究報告 第129集 国立歴史民俗博物館。
- 石橋 充 2010 「つくば市域の古墳群」佐々木憲一・田中 裕編『常陸の古墳群』六一書房 233-267頁。
- 岩崎卓也 1989 「古墳分布の拡大」『古代を考える 古墳』吉川弘文館 36-72頁。
- 1990 『古墳の時代』教育社。
- 伊東重敏 1994 『権現平古墳群』玉里村埋蔵文化財調査報告第1集 玉里村教育委員会。
- 茨城県教育財団 1991 『研究学園都市計画桜崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）桜崎遺跡Ⅱ区中塚遺跡（上）』茨城県教育財団文化財調査報告第63集。
- 茨城県歴史館 1974 『古墳時代の茨城：豪族と民衆のすがた』。
- 大竹房雄ほか 1981 『塚原古墳群第1号墳（観音山古墳）調査報告書』美浦村教育委員会。
- 蒲原宏行・松尾昌彦 1981 「筑塚古墳」『筑波古代地域史の研究』筑波大学 21-27頁。
- 上川名昭ほか 1972 『茨城県筑波町山木古墳』茨城県考古学会。
- 北内三喜男 1982 「土塔山古墳」『筑波古代地域史の研究 昭和54～56年度文部省特定研究経費による調査研究概要』筑波大学 44-47頁。
- 黒沢彰哉 1981 「茨城県における古式土師器の問題」『婆良岐考古』第3号 婆良岐考古同人会 14-41頁。
- 黒澤春彦 2001 『第6回特別展 弥生から古墳へ』上高津貝塚ふるさと歴史の広場。
- 陣内康光 1982 「お伊勢山古墳」『宮中野古墳群発掘調査概報 昭和56年度』鹿嶋町教育委員会 5-7頁。
- 塩谷 修 2000 「霞ヶ浦沿岸の前方後円墳と築造規格」『常陸の前方後円墳（Ⅰ）』茨城大学人文学部考古学研究室 116-136頁。
- 瀬谷昌良 1990 『灯火山古墳確認調査報告書』明野町教育委員会。
- 高橋嘉朗 1990 「美浦村の古墳と古墳群」『美穂村史研究』第6号 美浦村教育委員会 27-46頁。
- 滝沢 誠 1994 「筑波周辺の古墳時代首長系譜」『歴史人類』第22号 筑波大学歴史人類学系 91-112頁。
- 田口一郎 1987 「パレス・スタイル壺の末裔たち」『欠山式土器とその前後 研究報告編』第3回東海埋蔵文化財研究会 95-112頁。
- 田口崇他 1978 『木滝台遺跡松山古墳埋蔵文化財発掘調査報告書』日本考古学研究所。
- 田中 裕 1997 「茨城県千代田町熊野古墳の測量調査」『筑波大学先史学・考古学研究』第8号 筑波大学歴史・人類学系 107-117頁。
- 田中 裕・日高 慎 1996 「茨城県出島村田宿天神塚古墳の測量調査」『筑波大学先史学・考古学研究』第7号 筑波大学歴史・人類学系 83-106頁。
- 玉井輝男 1993 『下栗野方台遺跡』千代川村教育委員会。
- つくば市教育委員会 2001 『つくば市遺跡地図』。
- 筑波町史編纂専門委員会 1988 『筑波町史』上巻。
- 土浦市遺跡調査会 1997 『入ノ上遺跡：茨城県土浦市：都市計画道路田村沖宿線道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土浦市教育委員会。
- 土浦市史編さん委員会 1975 『土浦市史』土浦市史刊行会。
- 寺内のり子 1982 『平沢・山口古墳群』筑波大学考古学研究会。
- 半澤幹雄 1997 「関東東部－千葉県内の事例を中心に－」窯跡研究会編『古代の土師器生産と焼成遺構』

- 真陽社 169-185 頁.
- 比毛君男 2009 「土浦市域の中世土器様相」『土浦市立博物館紀要 第 19 号』土浦市立博物館 1-20 頁.
- 比田井克仁 2001 『関東における古墳出現期の変革』雄山閣出版.
- 日高 慎 1998 「茨城県 前期古墳から中期古墳へ」『第 3 回東北・関東前方後円墳研究会〈シンポジウム〉前期古墳から中期古墳へ』東北・関東前方後円墳研究会 105-122 頁.
- 古屋紀之 2006 「茨城県玉里村権現平 2 号墳の再検討」『玉里村立史料館報』Vol.11 玉里村立史料館 89-103 頁.
- 増田精一・岩崎卓也ほか 1982 『筑波古代地域史の研究 昭和 54 ～ 56 年度文部省特定研究経費による調査研究概要』筑波大学.
- 水戸市教育委員会 2005 『台渡里廃寺跡－範囲確認調査報告書－』.
- 箕輪健一 2000 「茨城県における前期古墳の基礎的研究」『茨城県史研究』84 号 茨城県立歴史館 80-88 頁.
- 茂木雅博ほか 1980 『常陸観音寺山古墳群の研究』茨城大学人文学部史学第 5 研究室.
- 茂木雅博・片山 洋 1975 「常陸伊勢山古墳の墳形について」『古代学研究』第 76 号 20-23 頁.
- 吉澤 悟・小野寿美子 2002 『常名台遺跡群確認調査神明遺跡(第 3 次調査)』土浦市教育委員会.
- 渡辺 一 1997 「関東東部－千葉県内の事例を中心に－」窯跡研究会編『古代の土師器生産と焼成遺構』真陽社 277-290 頁.

研究活動報告

『筑波大学先史学・考古学研究』第24号発刊

考古学実習（茨城県つくば市・桜塚古墳）

常木 晃, 滝沢 誠, ジャンモ・サーリ, ブライ・フリバル・ペトラ（期間：12/2～12/14）

先史学実習（栃木県佐野市・嘉多山公園七輪窯周辺地中探査）

三宅 裕, 辰巳祐樹（期間：11/14～11/17）,（大学実験室内作業）谷口陽子, 辰巳祐樹, ジャンモ・サーリ, ブライ・フリバル・ペトラ（期間：11/12～11/13）

常木 晃 イラン・アルサンジャン地区の考古学踏査, イラン国立考古学博物館での資料調査. Another Image of Complexity: the Case of Tell el-Kerkh, in Nishiaki, Y., Kashima, K., and Verhoeven, M. (eds.) *Neolithic Archaeology in the Khabur Valley, Upper Mesopotamia and Beyond. Studies in Early Near Eastern Production, Subsistence, and Environment 15*, Berlin, ex Oriente. 「南イランにホモ・サピエンスの足跡を探るーアルサンジャン・プロジェクト2012ー」『考古学が語る古代オリエント2012』日本西アジア考古学会（共著）. 「現代文明の基層としての古代西アジア文明」取手市埋蔵文化財センター第33回企画展アジアの西と東：メソポタミア8000年と取手ー蘇武コレククション（講演）. Archaeological Investigation at Tang-e Sikan Cave. *Arsanjan Paleolithic of Iran*（口頭発表）. Tell el-Kerkh 2010. *Chronique Archéologique en Syrie: Special Issue Documenting the Annual Excavation Reports Concerning the Archaeological Activities in Syria*, Excavation Reports of 2010-2011, The Directorate General of Antiquities and Museums（共著）. An introduction to the Old a New Arsanjan Project. *Prehistoric Archaeological Research in the Arsanjan Region*（招待講演）. 「北東イランの新石器化ータペ・サンギ・チャハマックの調査成果からー」『日本西アジア考古学会第18回総会・大会要旨集』. Introduction. *Consideration for the Dead: Studies from the Neolithic Cemetery at Tell el-Kerkh*（口頭発表）. The Archaeology of Death in the Late Neolithic: a View From Tell el-Kerkh, in Nieuwenhuys O. P., R. Bernbeck, P.P.M.G. Akkermans, and J. Rogasch (eds.) *Interpreting the Late Neolithic of Upper Mesopotamia*, Brepols Publishers, Turnhout. Proto-Neolithic caves and Neolithisation in the Southern Zagros, in Matthews, R. and H. Fazeli Nashli (eds.) *The Neolithisation of Iran, The Formation of New Societies*, Oxbow Books, Oxford. Tappeh Sang-e Chakhmaq: Investigations of a Neolithic Site in Northeastern Iran, in Matthews, R. and H. Fazeli Nashli (eds.) *The Neolithisation of Iran, The Formation of New Societies*, Oxbow Books, Oxford（共著）. Olive Oil Production in Syrian and Beyond. *The Olive Oil Production in the Ancient East Mediterranean*（口頭発表）. "The Site of Tappeh Sang-e Chakhmaq", "Pottery and Other Objects". *The First Farming Village in Northeast Iran and Turan: Tappeh Sang-e Chakhmaq and Beyond*（口頭発表）.

三宅 裕 トルコ, ハッサンケイフ・ホユック遺跡の発掘調査. 「西アジア型農耕と家畜の乳利用ー遊牧の成立をめぐって」大沼克彦編『ユーラシア乾燥地域の農耕民と遊牧民』. 「初期定住集落の姿を探る：トルコ, ハッサンケイフ・ホユック2012年度の調査」『考古学が語る古代オリエント：第20回西アジア発掘調査報告会報告集』（共著）. 「カゼイン由来のペプチドを指標とした乳利用の起源の検証可能性ーMALDI/TOF質量分析装置を用いた評価系ー」『帯広畜産大学学術研究報告』34巻（共著）. Recent Progress in the Neolithic Investigations of the Anatolian Tigris Valley. *Neolithic Archaeology in the Khabur Valley, Upper Mesopotamia and Beyond*. Hasankeyf Höyük/Batman: Dicle'nin İlk Köyü. *ArkeoAtlas* 8-2013. Salat Camii Yanı: Evcirleştirmeyle gelen Çokuş. *ArkeoAtlas* 8-2013. Hasankeyf Höyük/Batman. *ArkeoAtlas* 240. Salat Camii Yanı Kazıları: 2004-2008. *Ilisu Barajı ve HES Projesi Arkeolojik Kazıları: 2004-2008 Çalışmaları*（共著）. Excavations at Salat Camii Yanı 2004-2008. *The Ilisu Dam and HEP Project Excavations: Season 2004-2008*（共著）. 「西アジアにおける銅利用の起源とその技術的展開」『第6回アジア考古学四学会合同講演会 アジアの青銅器』（口頭発表）. 「初期定住集落の姿を探るートルコ, ハッサンケイフ・ホユック第2次調査（2012）」『第20回西アジア発掘調査報告会』（口頭発表）. 「南東アナトリアにおける定住化と生業」『交替劇プロジェクト